

THE ROOF



吉田 博《村里の子供たち(岩戸)》水彩・紙 当館蔵

Contents

- 表紙 吉田 博《村里の子供たち(岩戸)》
- 「生誕140年 吉田 博展」—世界の美しい風景を求めて—
- 「西洋更紗 トワルド・ド・ジュイ展」—愛され続けるフランスの西洋更紗—
- 常設展示室から
- 寄稿「初心者のための陶芸ワークショップ」をふりかえって
- Report
- Information

世界の美しい風景を求めて

吉田博は明治9（1876）年、現在の久留米市に生まれ、明治画壇を牽引した洋画家の一人です。その制作は水彩・油彩・木版画にわたっており、本展は前後期合わせて約250点の作品から博の画業の全容を見渡せる構成になっています。

吉田博は18歳目前に小山正太郎の画塾不同舎に入門し、絵画の基礎を学びます。この頃の作品には、表紙の《村里の子供たち（岩戸）》があります。手前から奥に続く道を画面中央に配し、点景人物を置くという典型的な不同舎風の構図です。青竹の描写が面白く、水彩技法への熟達が見て取れます。

明治32（1899）年、博は不同舎の仲間中川八郎と共に、片道の船賃と一か



《穂高山》

月分の生活費、それから描き溜めた水彩画を携えてアメリカへと発ちます。桜や日光などの日本風景を描いた水彩画は大変な好評を得て、二人はその資金でヨーロッパへと渡り、さらなる修業を続けま

家ならではの視点で描かれています。穂高は特に愛した山で、次男に「穂高」と名付けるほどでした。後半生は木版画制作が中心になりますが、ここでも山は重要な画題でした。米国、欧州への外遊から生まれた作品を次々と発表し、国内でも日本アルプスや富士の姿を版画に収めました。また、瀬戸内海や川など、水の風景も実に巧みに描き出しています。《瀬戸内海集 帆船 朝》は、同じ構図で色を替えて時間や天気の違いを表現した帆船シリーズの一つ。朝日に輝く空の色合いと水の揺らめきが見事です。



《朝霧》

への視点は、博の作品に新たな魅力を加えました。霧に差し込む朝日が美しい《朝霧》などの作品によく表れています。

博は山岳画家としても一つの地位を得ています。毎夏、山岳地帯へのスケッチ旅行を敢行し、平地からは見られない壮大な山の姿を追い求めました。《穂高山》も、高い標高から山頂を眺める、山岳画

山と水

生誕140年

吉田博展

HIROSHI YOSHIDA

2016.6.4 sat → 7.24 sun

休館日：毎週月曜日（7月18日（月）は開館、翌日休館）
 観覧料：一般800（640）円 高校・大学生500（400）円
 （ ）内は20名以上の団体料金 中学生以下、65歳以上の方、障がい者手帳をお持ちの方は無料
 主催：郡山市立美術館、毎日新聞社 特別協力：福岡市美術館
 協力：mont・bell 協賛：ニューカラー写真印刷株式会社

※6月28日（火）より後期展示

《穂高山》 大正期 油彩・キャンバス 個人蔵 / 《朝霧》 1901-03(明治34-36)年 水彩・紙 福富太郎コレクション資料室蔵 / 《瀬戸内海集 帆船 朝》 1926(大正15)年 木版・紙 千葉市美術館蔵



《瀬戸内海集 帆船 朝》

愛され続けるフランスの西洋更紗

更紗は、さまざまに模様染めがほどこされた綿布です。ヨーロッパ産である西洋更紗の源流となったインド更紗は、およそ2000年以上の歴史があります。インド更紗は主に茜や藍などの植物染料を使用し、木綿布に色鮮やかな手描き染めや木版染めをほどこします。各国に東インド会社が設立されたのを背景に、17世紀以降、ヨーロッパへのインド更紗の輸出量が急増しました。鮮麗な色彩と異国情緒あふれる文様のうえ、洗濯が可能

という実用性の高さゆえに、インド更紗はヨーロッパの人々に熱狂的に受け入れられたのです。日本では、オランダ東インド会社との通商においてインド更紗が重要な交易品となりました。大名や文人たちはインド更紗熱をいっそう高め、衣料や調度品、茶道具やこまやかな装身具にいたるまで、端裂さえも誂えに活かして粋を競いました。

インド更紗の爆発的な流行は、18世紀以降のヨーロッパの染織産業に大きな影響を及ぼしました。西洋更紗を代表するトワルド・ジュイ（フランス語でジュイの布という意味です）は、フランス、ヴェルサイユ近郊の村ジュイ＝アン＝ジョザスの名に由来しています。18世紀後半にクリストフ＝フィリップ・オーベルカンブ（1738-1815）によって、この村に染色工場が設立されました。

トワルド・ジュイは、様々な花模様を色鮮やかに木版染めしたデザインや、単

一の色調で田園風景を銅版染めしたデザインなどが大きな特徴です。優美で質の高いトワルド・ジュイは、王妃マリー・アントワネットが愛用するなど、当時の室内装飾や衣裳などに取り入れられ、一世を風靡しました。

本展では、今なお愛され続けるトワルド・ジュイの世界を本格的にご紹介いたします。西洋更紗の起源であり、日本でも更紗熱を生んだインド更紗などを併せてご覧いただき、その伝播の一端を紐解きます。トワルド・ジュイ美術館の所蔵品を中心に、国内外のコレクションから約150点が出品される貴重な機会となります。（永山多貴子）



《グッド・ハーブス》



《黄色の背景の花文様》



《更紗寄裂下着》

Toile de Jouy
Printed Textiles from France

特別出品

王妃マリー・アントワネットも愛したトワルド・ジュイ。アントワネットが着用していたトワルド・ジュイのドレスの断片が出品されます。

《マリー・アントワネットのドレスの断片》
1780年頃（ジュイ、フランス）手描き・綿、現在の本の装丁に使用
ポーアラン寺院、サン・ルイ修道院
©Abbaye Saint Louis du Temple de Vauhallan



マリー・アントワネットも愛した美布

西洋更紗 トワルド・ジュイ展

2016.8.6 sat → 9.11 sun

休館日：毎週月曜日

観覧料：一般 1000 (800) 円 高校・大学生 500 (400) 円

()内は 20 名以上の団体料金 中学生以下、65 歳以上の方、障がい者手帳をお持ちの方は無料

主催：郡山市立美術館

後援：在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ日本、ベルギー大使館

協力：日本航空

In cooperation with Musée de la Toile de Jouy



《お城の庭》より

《黄色の背景の花文様》 1788年(ジュイ、フランス) 紙の試し刷り:木版、水彩・紙 / 《グッド・ハーブス》18世紀末~19世紀初頭(ジュイ、フランス) 木版・綿 /

《お城の庭》よりジャン＝バティスト・ユエによるデザイン 1785年(ジュイ、フランス) 銅版・綿 すべてトワルド・ジュイ美術館蔵 ©Courtesy Musée de la Toile de Jouy /

《更紗寄裂下着》19世紀前半(製:ヨーロッパ、他) 19世紀後半~20世紀初頭(仕立て:日本) 綿 個人蔵

常設展示室から 郡山市立美術館2階、常設展示室を特集します。

当館の常設展は、4つの部屋に分かれており、それぞれにテーマを設けています。年に4回の展示替えを行い、期間ごとに一部屋ずつテーマを決めて、作品を入れ替えています。その時期のテーマによって、違った作品が展示されていたり、同じ作品でも並び方が変わっていたり。異なる視点から見ることで、ひとつの作品がまったく違って見えることもあるかもしれません。



展示室2



展示室1

展示替え

約2200点もの収蔵作品からできるだけ多くの作品を紹介するため、また、作品保護のため、3か月程度で展示替えを行います。作品の配置や照明を調整し、作品保護、来館された皆さんに楽しんでいただくことを考慮しながら考えられています。

展示のテーマ

展示替えのたびに、当館のコレクションの特徴を生かして、部屋ごとにテーマを設けていますが、その視点も様々です。美術の一断面を切り取ったり、ある作家で小特集をしたり、企画展にあわせて作品を選んだり…。毎回それぞれの部屋の担当者の趣向が凝らされているのです。



展示室4-2



展示室4-1

平成28年度第1期(7月18日まで)の展示では、展示室2と展示室4-1で、企画展「吉田博展」に関連した作品を展示し、より充実した内容になるような工夫をしました。今後も企画展とあわせて、常設展もぜひお楽しみください。

却先などを書いた『絵のゆくへ』という文献を残していて、そのなかに1918(大正7)年1月に福島県静湯で描いた、

というのも、作者夫人が夫の作品の売却先などを書いた『絵のゆくへ』という文献を残していて、そのなかに1918(大正7)年1月に福島県静湯で描いた、

また、この作品は見てのとおり猪苗代湖越しに磐梯山を描いた作品です。現在の会津若松市湊町大字静湯、中田浜湖水浴場付近から見た磐梯山かと思われる。

山本森之助は長崎生まれで、明治大正にかけて、外光派の代表的な風景画家として、文展、帝展、白馬会展、光風会展などで活躍した洋画家です。



1918(大正7)年
油彩・キャンパス
76.0×106.5cm

新収蔵作品
山本森之助
冬の磐梯山



おびからくりの実物(左)と、触って動かせる模型(右)

秋山泰計の おびからくりと 模型展示

7月18日まで、常設展示室3では「秋山泰計のおもしろワールド」というテーマで展示しています。その模型展示について、担当の学芸員に聞きました。



展示室3

版画家・秋山泰計(1927~1986)が1970年代後半から手がけた造形作品「おびからくり」。二つの多面体を3本の帯でつなぎ、キジがキツネに、サルが少女に入れ替わるというユニークな仕掛けです。その様子を写真パネルにしても構造や仕掛けがわかりにくいことから、模型を置いて実際に動かせるようにできたら…:そんなふうに思っていました。

当館は秋山の木版画41点とおびからくり4点を所蔵していて、それまでも常設展示室の1室を使って特集展示をおこなってきました。模型は平成22年度の展示でまず2点設置。26年度に3点目、そして今年度の展示でようやく全4点揃いました。

模型を作成する前段階として、造形作家・斎藤真紀さんの協力を得て「からくりボックスを作ろう!」というワークショップを開催(平成18年度、21年度)。単純なかたちで原理を学び、模型制作が実現しました。

模型展示の様子は…小学生の団体見学を案内すると、交代で模型を動かす子供たちが夢中で動かしています。構造まではなかなかわからないようです。動きのおもしろさだけでなく、構造や原理まで興味を持つ

子供がいると説明も力が入ります。さらに版画にも興味を持ってくれたら…。おびからくりが面や帯を共有して反転させることで別のかたちがあられるように、白黒の反転した面が境界線を共有している版画の画面をより楽しめるのではないかと思っています。子供たちに人気の《ひとり十人》では顔の中にいくつもの顔が隠れています。大型の版画作品もまた、集積する面が錯綜した圧倒的な迫力を持っています。そんな版画作品の魅力も伝えたいと思います。そんな模型の改良を考えています。(中山恵理)



《ひとり十人》
1961(昭和36)年
木版・紙
当館蔵

常設展示のご案内

～7月18日(月・祝)

- 展示室1 イギリスの風景画
- 展示室2 日本近代洋画—二つの潮流
- 展示室3 秋山泰計おもしろワールド
- 展示室4 木版画の魅力/信仰と形

7月21日(木)～10月16日(日)

- 展示室1 光を描く
- 展示室2 日本と印象派のフォーヴィスム
- 展示室3 郡山ゆかりの作家たち
- 展示室4 コットマンの建築遺構集/涼のガラス



2013(平成25)年11月撮影

と書かれています。実際に中田浜湖水浴場に立ってみますと、まさに同じ風景でした。
ちなみに、この作品とほとんど同じ絵柄の作品が、森之助の郷里・長崎県美術館に収蔵されています。いわば兄弟作品ですね。(鈴木誠一)



寄稿 「初心者のための 陶芸ワークショップ」を ふりかえって

としのり
宗像 利訓 (陶芸家)

今回、美術館での陶芸の企画展の関連ワークショップということで、受講生の皆さんには、作品を作り上げることはもちろん、それ以前の土を練る工程や陶芸についての講義などを交えて、焼き物に対する興味をさらに深めてもらいたいと考えました。今回は二日間ワークショップを開催し、一日目は、まずは、私が焼き物作りを行っている会津本郷焼や我が家の窯の歴史や特徴などについて講義しました。その後、受講生の皆さんには、作品を作る前に、土練りを体験していただきました。陶芸の世界では、昔から土練り三年ということがよく言われているほど、大切な作業です。はじめに、荒練りで土の固さを均一にした後、菊練りによって土の中から空気を抜くという作業をします。この時、練ることによってできる土のひだが重なり合い、菊の花のような景色が出来上がるためそう呼ばれています。見た目以上に、なかなか難しい作業でもあり、受講生の皆さんも汗をかきながら一生懸命打ち込まれました。

そして、いよいよ作品作りに入りました。こちらからは、ひも作りという、ひも状の土を積み重ねて作り上げる方法を説明したのち、その方法を応用するなどして受講生の皆さんがそれぞれ作りたいものを制作されました。ちょうどその時開催していたルーシー・リーの作品の影響なのか、表面を鏝しぼにより、細かい線が沢山刻まれた花瓶や抹茶碗などのモダンな作品や、料理が映えそうな器など、それぞれ制作者のこだわりが感じられる力作が多くありました。そして、最後に余った時間には、少しでも電動ロクロによる成形も体験してもらいました。

その後、成形した作品を工房に持ち帰り、ひび割れなどがないかを確認したり、修正した後乾かしました。この際、成形した直後にはわからなかったひびが乾燥するにつれて大きくなってしまったものもあり、その修正には予想以上に神経を使いました。ようやく完全に乾いた後、釉薬をかけて、窯で焼成し、とうとう作品が完成しました。窯から作品を取り出した際、少しヒビが入ってしまった作品があったものの、割れや歪みにより破損してしまっただけで、一つもなかったの

で、とても安心しました。おおよそ一か月後の2回目のワーク



土練りを体験

ショップでは、受講生の皆さんが、それぞれ完成した作品と対面し、感想などを発表してもらいました。お一人お一人の作品に対する思いを聞くことができ、作品一つ一つに特別な思い入れを持って制作に打ち込まれたことが伝わってきました。

今回、ワークショップを通じて、受講生の皆さんと土から形を生み出す楽しさや、素晴らしさ、そして作品が完成した際の喜びや感動を共有することができ、大変貴重な経験をすることができました。私自身、今後も新鮮な気持ちで作陶に向き合い、伝統を受け継ぎながら新しいことにも挑戦して、より良い作品を作っていきたいと思えました。最後になりましたが今回このような機会を与えてくださいました郡山市立美術館に心より感謝いたします。

没後20年 ルーシー・リー展関連事業
「初心者のための陶芸ワークショップ」
平成28年2月7日(日)、3月13日(日)
講師/宗像利訓さん 会場/創作スタジオ



ワークショップ終了後、美術館ロビーに展示された受講生の作品

R e p o r t



季節を染める一枰

平成27年12月6日(日)
講 師:佐治ゆかり(当館館長)
会 場:創作スタジオ

美術館周辺で採取したクヌギのはかまを材料にスカーフを染めました。古くから身近な染料として使われてきたクヌギから味わい深い色合いが引き出され、参加者の皆さんは染色への関心を一層高めていた様子でした。



銅版画講座

平成28年2月27日(土)、
3月5日(土)、6日(日)
講 師:安藤真司さん(版画家)
会 場:創作スタジオ

初心者の方を対象にした銅版画の技法講座。繊細な線が表現できるエッチング技法と、ハーフトーンの色面が表現できるアクアチント技法を併用しながら、多彩な銅版画が完成しました。



春休み親子ワークショップ 「じぶんだけのとびっきりの うつわをつくろう!」

平成28年3月19日(土)、20日(日)
講 師:藤田百合さん(女子美術大学講師)
会 場:多目的スタジオ

「ルーシー・リー展」にあわせ、器の鑑賞や創作を楽しみました。ゲームをしながら造形に親しんだあと、オープン陶土を使用し、世界にひとつだけの感性豊かで個性あふれる素敵な器を作りました。



第8回 風土記の空～郡山市内の 中学校美術部・選択美術による作品展

平成27年11月10日(火)～12月23日(水・祝)
会 場:美術館ロビー
主 催:郡山市立美術館

郡山市内の中学校の美術部での活動や選択美術の授業で制作された作品を紹介するものです。中学生が自分自身で額装し、展示も自分たちで行う展示体験も実施しました。参加校:日和田中学校、守山中学校、郡山第二中学校、郡山第四中学校、郡山第五中学校、緑ヶ丘中学校、小原田中学校、西田中学校。



講演会

「モダニズムの陶芸家、 ルーシー・リーの造形美」

平成28年1月30日(土)
講 師:金子賢治さん(茨城県陶芸美術館館長)
会 場:多目的スタジオ

「ルーシー・リー展」にあわせて開催されました。世界の陶芸の伝統を幅広く学び、様々な様式を吸収しながら独自のスタイルを打ち立てていった、リーの陶芸家人生をうかがい知ることができました。

心と記憶の形象 [かたち] —古民藝もりたの眼

講演会「モノとの出会い」

平成28年4月23日(土)
講 師:森田 直さん(「古民藝もりた」店主)
聞き手:佐治ゆかり(当館館長)
会 場:多目的スタジオ

特別ギャラリートーク

平成28年5月14日(土)
講 師:森田 直さん(「古民藝もりた」店主)
会 場:企画展示室



アート・テーク

平成27年度 第5回 「見えないものを見せるための いくつかの仕掛け」

平成28年1月23日(土)
講 師:京極夏彦さん(小説家)
会 場:多目的スタジオ

本講座では、直木賞作家であると同時に、妖怪研究の第一人者である京極夏彦さんにご講演いただきました。京極さんの妖怪の世界に関する深い造詣と愛が、どのように文芸作品として表出するのか、創造の核心についてお話ししました。



平成27年度 第6回 「異界の造形」

平成28年3月26日(土)
講 師:佐治ゆかり(当館館長)
会 場:講義室

平成28年度第1回 「〈骨董〉の歴史」

平成28年5月28日(土)
講 師:佐治ゆかり(当館館長)
会 場:講義室

企画展関連イベント(7月1日以降)

生誕140年 吉田博展

美術講座「吉田博と不同舎の仲間たち」

日 時:7月17日(日) 午後2時から
場 所:講義室(入場無料)
講 師:当館学芸員

ギャラリートーク

日 時:7月2日(土)、7月24日(日) 午後2時から
場 所:企画展示室(企画展チケットが必要です)
講 師:当館学芸員

マリーアントワネットも愛した美布 西洋更紗 トワルド・ジュイ展

講演会

「江戸時代における西洋更紗の輸入とその受用」

講 師:石田千尋氏(鶴見大学教授)
日 時:8月20日(土) 午後2時から
場 所:多目的スタジオ(入場無料)

美術講座「更紗と日本」

日 時:9月4日(日) 午後2時から
場 所:講義室(入場無料)
講 師:佐治ゆかり(当館館長)

ギャラリートーク

日 時:8月14日(日)、8月28日(日) 午後2時から
場 所:企画展示室(企画展チケットが必要です)
講 師:当館学芸員

映画会「マリー・アントワネット」(アメリカ合衆国 2006年)

日 時:8月11日(木・祝) 午後2時から(開場は30分前)
会 場:多目的スタジオ(入場無料)

第15回 風土記の丘の美術展 郡山市内の小学生による作品展



会 期:7月18日(月・祝)～8月21日(日)
主 催:郡山市立美術館・郡山市小学校造形教育研究会
会 場:美術館ロビー

第1期	7月18日(月・祝)～7月24日(日) 柴宮、穂積、三和、多田野、多田野堀口分校、河内、開成、薫、大槻、大成、朝日が丘、ザベリオ学園
第2期	7月26日(火)～7月31日(日) 金透、芳山、芳賀、桃見台、赤木、白岩、東芳、大島、緑ヶ丘第一、宮城、海老根、御館、御館下枝分校
第3期	8月2日(火)～8月7日(日) 片平、喜久田、熱海、熱海石筵分校、安子島、湖南、富田西、桑野、小山田
第4期	8月9日(火)～8月14日(日) 安積第一、安積第二、安積第三、永盛、守山、御代田、高瀬、谷田川、田母神、栃山神、橋、小原田、桜
第5期	8月16日(火)～8月21日(日) 日和田、高倉、行健、行健第二、明健、小泉、行徳、富田、富田東、高野、鬼生田、三町目、大田、根本屋

夏休み公開 ワークショップ

第11回 風土記の丘発 図工&美術の時間へようこそ!

小中学校の先生と一緒に、図工と美術の授業を体験。
いろいろなテーマのコーナーでお待ちしています。

日 時:8月6日(土)
午前の部:11:00～12:00
午後の部:14:00～15:00

講 師:郡山市内の小中学校の先生
会 場:多目的スタジオ
定 員:各コーナーとも先着15名程度。
※申込不要です。



郡山市立美術館文化講座 アート・テーク

平成28年度 第2回 「日本美術史」－受容と展開

日 時:7月23日(土) 午後2時から
講 師:佐治ゆかり(当館館長)
会 場:講義室(入場無料)
※申込不要です。

平成28年度 第3回 「合唱と共同体」

日 時:9月24日(土) 午後2時から
特別講師:渡辺裕さん(東京大学教授)
会 場:多目的スタジオ(入場無料)
※申込不要です。

TOPICS

美術館 カフェ

juju 130 cafe

営業時間 / 11:00 - 17:00
電 話 / 024-942-2250

【期間限定】 焼きたてベルギーワッフル 単品580円(ドリンクセット960円)

ベルギー産の良質なシュガーのみを使用し
1枚1枚丁寧に焼き上げています。
「チョコレート×ダブルベリー」
「キャラメル×バナナ×シナモン」の
2種類からお好きなものをお選びください。

